

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171600200
法人名	有限会社 コトブキ
事業所名	江北紀水苑
訪問調査日	平成19年11月28日
評価確定日	平成20年1月25日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171600200
法人名	有限会社 コトブキ
事業所名	江北紀水苑
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田1268-1 (電話 0952-71-6310)

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号
訪問調査日	平成19年11月28日
評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	9人 常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建て造り 1階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費徴収	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人敬天堂 古賀病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園地帯のやや小高い所に位置している。職員は、いつも温かい思いやりの心と笑顔で入居者や家族に接している。入居者一人ひとりをよく把握し、他人ではなく、自分の祖父母と違って、見守り、支援している。これらが、入居者の穏やかな表情とゆったりとした暮らしぶりに現れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題となった申し送り時の工夫について取り組み改善が図られている。「申し送りノート」の記録者サインの件は直ちに改善した。「食事時のエプロン着用」についての改善課題については、本人がエプロンを着用することによって、不安なく自分なりの食べ方が出来ているかを再検討し、本人と家族に相談しながら対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で検討し、評価項目の内容や解釈に新しい発見もあり、改めて意識向上の糧としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に開催されている。その間の行事や介護・支援の様子についての報告、地域との関わり方等が主に取り上げられている。地元老人会での食事会への誘いがあったり、緊急時における近隣の方の応援についても理解が得られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に笑顔で気軽に声をかけている。家族との会話の中から、要望や不安な気持ちを汲み取るように心がけている。意見箱の利用も呼びかけている。出された意見や要望等は、全員で検討し、運営に活かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常の買い物や散歩を通じて、地域の方と顔なじみになって、挨拶や言葉を交わしている。野菜栽培を手伝ってもらったり、地元の小中学生がモグラ打ち行事に訪れたりするなど地域交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時から地元への還元も目的としており、「たのしく、あかるく、こちよく」の理念のもとに、地域とのふれあいを大切にしながら、入居者の支援にあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が常に理念を意識しており、会議や打ち合わせ等の時、理念の具体化について意見を出し合い、その実現を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の運動会に椅子を用意してもらい、競技にも飛び入りで参加している。文化祭や地域の敬老会、祭りにも参加している。また、散歩時に挨拶や言葉を交わしたりして、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価をサービスの質の向上の良い機会として前向きに捉え、全員で検討している。反省点や改善点を初心に戻って、日頃の支援に活かす様になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催されており、協議題についても工夫している。地域の方からも質問や意見、提案があっている。地域老人会の食事会への誘いもあっており、地域のホームに対する認識を深める機会にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者や管理者が行政側に出向き、相談したり、情報を得る機会も多い。認知症に関する相談や介護教室の開催にも応ずる用意がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に出来るだけ具体的に日頃の様子を伝えている。毎月発行している苑だよりと共に1ヶ月の諸情報を書面にして家族に郵送し、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず声をかけ、話の中から家族の意向も汲み取る様にしている。意見箱を設置したり、家族会懇談の折に意見を出してもらい、改善の良き資料としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ない理由による職員の離職を除いては、職員の交代は少ない。職員の年齢構成もバランスがとれ、職員同士や、入居者との意思疎通を常に図る様に心掛けている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育計画に基づき、研修が行われている。毎月、夜勤者を除く全員参加の法人での研修会に参加している。また、外部で行われる研修会にも参加する機会があり、研修内容の報告会も持たれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームや病院と情報交換の場を設けたり、県内の同系列のグループホームとの交流研修の機会も多く、サービス向上のための一環となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族とよく相談し、見学の形で事業所を訪問してもらい、一緒にレクリエーションを楽しんだり、食事を共にしたりしている。入居前に利用しておられた施設等を職員が訪問し、本人が抱える不安等についても理解に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩であると共に、同じ家族の一員であるという意識で支援しており、入居者の喜び・悲しみ、不安等を理解し、共感している。入居者の人生経験から得られたものから学ぶことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や入居後の日々の関わり合いの中で、言葉、表情、行動から意向や思いの把握に常に努めており、毎日の支援にも本人の希望を取り入れる等してそれが活かされている。家族との相談も多い。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの意向や希望を聴き、家族ともよく相談して、その方が居心地よく暮らしていけるような具体的な計画書が作成されている。ケース会議の内容や、毎日の引継ぎ事項を活かした計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しや評価だけでなく、状態変化に応じて随時、計画の見直しがあっている。その場合、家族ともよく相談し、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて外泊や一時帰宅、外出、病院等への移送等の支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望されるかかりつけの病院での受診をしている。主治医と電話や書面での連絡もとられている。なお、協力医療機関との連携により、日頃より健康管理が行われ、24時間の連絡体制も確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護の指針があり、家族にもその説明がされており、了承を得ている。健康状態の変化があれば家族に必ず連絡され、話し合いが持たれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格を尊重し、プライバシーを損ねるような態度や言葉は見られない。個人情報取り扱い規定の周知徹底も図られているが、居室扉の場所間違いに対応するための印に、その方の生年月日が記入されている。	○	生年月日を書いた紙は、扉の外側にあり、第三者の目に触れる機会もあると思われる。個人情報の取り扱いについては一層の配慮が期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の暮らしの流れはあるものの、それに捉われることなく、入居者は自分の生活リズムで思い思いにゆったりと過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事であり、会話もある。野菜の下ごしらえをしたり、味付けをみたり、食卓の準備や後片付けなど、自分に出来ることを職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	何時でも入浴出来る様にお湯の準備は出来ている。一人ひとりの希望や体調・状態に合わせて、職員がタイミングを見計らって入浴の支援をしている。仲良しの二人で一緒に入浴される方もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜栽培、水やり、食事の準備、洗濯物、その他多くの役割がある。花生けの免状、電気関係の仕事、食堂で働いていた経験等が活かされており、入居者はその事を任されているという気持ちをもっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外庭での食事、日向ぼっこ、職員と一緒にの食材選び等がある。希望による花見等の機会もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害については勉強会等で十分に理解している。日中は玄関は施錠をしていない。しかし、安全管理上、その方の状況によっては一時的に居室の窓を施錠する事もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練と消火訓練を行っている。運営推進委員会で状況を説明し、理解を得ている。また、近隣の方から緊急時の応援についても理解を得ている。	○	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得た避難訓練等の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の野菜を中心とした高齢者向きの栄養バランスのとれた献立で、管理栄養士の指導も受けている。毎食後、一人ひとり食事量の把握ができています。水分摂取量にも十分に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やわらかい光が差し込み、明るい室内である。テレビのつけっぱなしもなく、不快な音も聞こえない。脱衣場には温度差を無くするためヒーターを置いている。昼の間や長椅子でゆっくりと過ごしている方もいる。広い窓からは四季の移ろいが眺められ、心を安らげている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花、家族の写真、ぬいぐるみ、時計、テレビ、お気に入りの服、化粧品、コーヒーカップ等、いろいろな物が見受けられ、その方らしくて落ち着いて過ごせる居室である。		